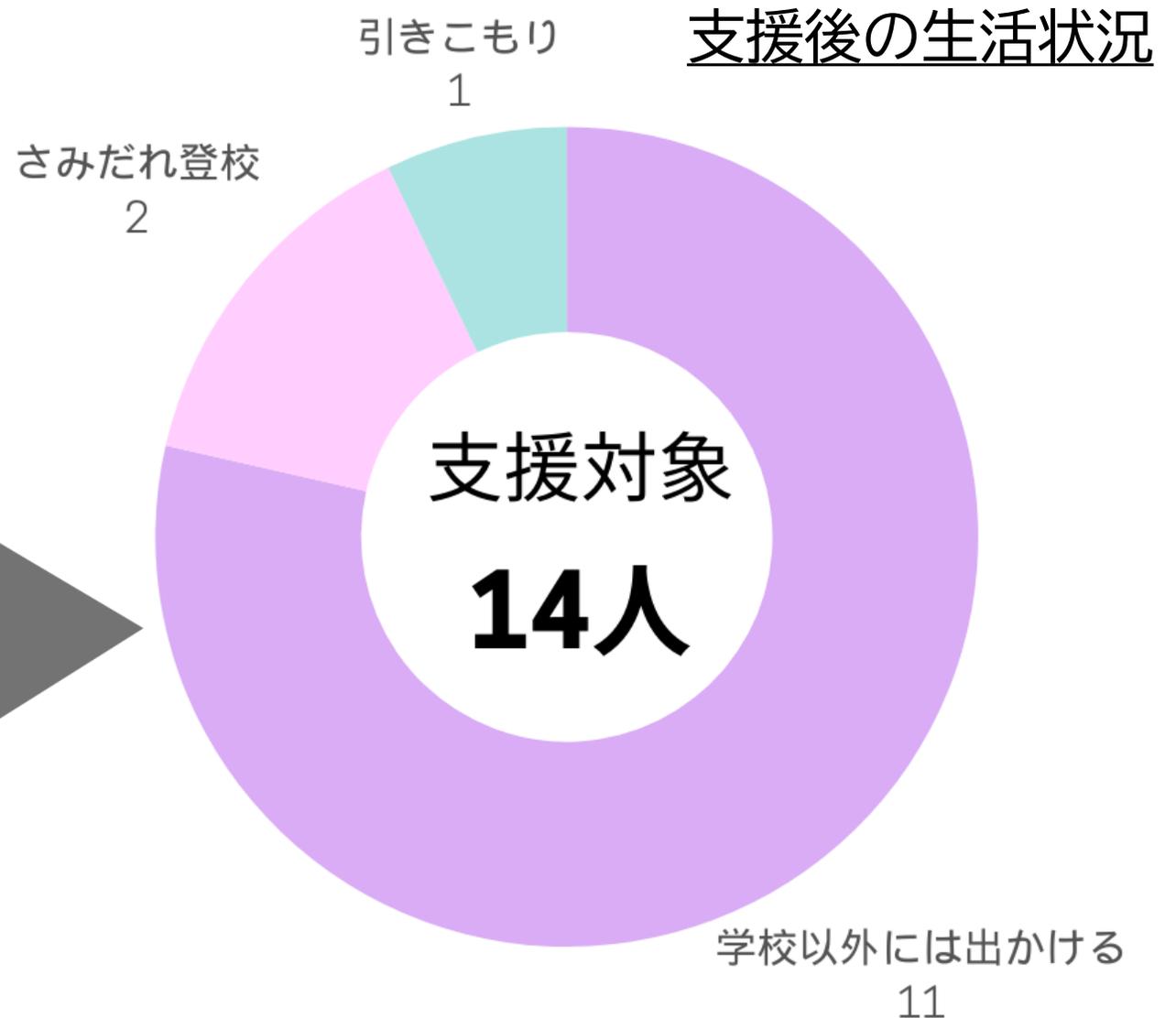


利用開始前の生活状況

注)面談を実施したが、継続支援に繋がらなかった3名が別途にいる。

「引きこもり」状態であった
9名のうち8名が
社会交流を回復した。



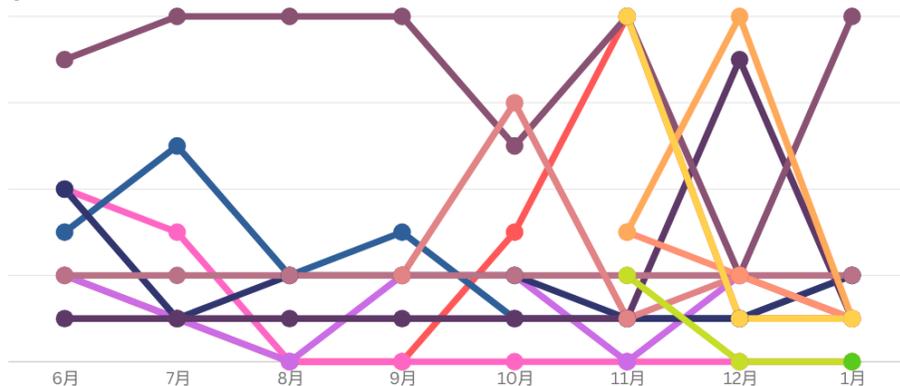
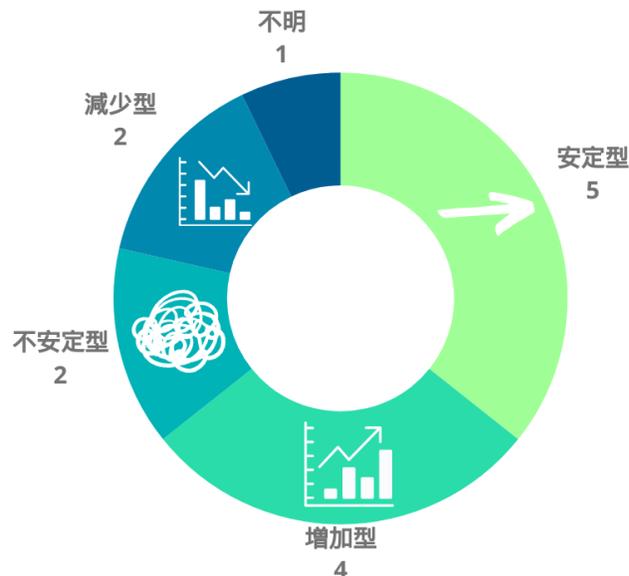


【応用行動分析学によるトレンド分析】

標的行動として、「教室に来ること」と定める。

その回数を月ごとにカウントし、棒グラフを作成。トレンド(傾向)を分析し、トレンドタイプ4種に分ける。

それぞれのタイプごとのインタビュー内容をまとめた。



支援対象者別の月ごとの利用推移

トレンドタイプ	生活状況の変化 (インタビューによる非構成的面接)	事業成果
安定型	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムが安定した 昼夜逆転が治った 	
増加型	<ul style="list-style-type: none"> 進学/就職先について考えるようになった おしゃれ/恋愛に目覚めた 偏食が改善した キレイにようになった 人と話ができるようになった アイコンタクトができるようになった 外出できるようになった 	
不安定型	なし	
減少型	なし	



トレンドタイプ	分析結果	今後の展開
安定型	学校には不適應だが、社会交流に対するニーズが高い。合う環境があれば、自走ができる。	本事業の継続にて対応
増加型	内省的で自己完結な傾向があるため、本人の興味に基づく余暇活動の提供で、態度が軟化しやすい。	本事業の継続にて対応
不安定型	不安定型に分類される2名は、逆境的小児期体験（ADVERSE CHILDHOOD EXPERIENCES, ACE）の項目で4点以上という共通点がある。一般的に、ACE児の支援は、そうでない児童と比較し、支援が長期に渡り、また成果を出しにくいという特徴がある（三谷はるよ,2023）。今回支援した2名にも同様の傾向が見られた。	（スコップの新規プロジェクト） 心理、社会、経済的な「少人数制」の福祉的要素が強いプログラムが必要。
減少型	減少型2名と継続支援に繋がらなかった3名は、本人・家族のニーズが「学習」に向いているという共通点がある。本事業は、社会交流と居場所作りを中心としたプロジェクトため、ニーズに合致しなかったと考えられる。	より学習に特化した教育的要素の強いプログラムが必要。 （教育分野の専門機関が担う方が効率が良いと思われる）

逆境的小児期体験・10項目 (Adverse Childhood Experiences, ACE)

1. 十分な食事が与えられない、衣服が汚れている、あるいは守ってくれる人や世話してくれる人がいないと感じた。
2. 離婚、育児放棄、死亡などの理由で、親をなくした。
3. うつ病、精神疾患、自殺者未遂をした人と生活していたことがある。
4. アルコール中毒や薬物中毒(処方薬を含む)を患っている人と生活していたことがある。
5. 家にいる親や大人が、お互いに突き飛ばしたり、殴ったり、叩いたり、あるいは危害を加えたり、脅したりしたことがある。
6. 収監された、あるいは実刑判決を受けた人と生活したことがある。
7. 家にいる親や大人が、あなたを罵ったり、侮辱したり、けなしたことがある。
8. 家にいる親や大人が、あなたを叩く、殴る、蹴るなどの肉体的な暴力を加えたことがある。
9. 家族のだれからも愛されている、あるいは特別な存在だと思われたことがないと感じる。
10. 自分が望まない性的接触を強制されたことがある。



謝辞

【keep step】は、当団体にとって、初めての助成プロジェクトです。
大きなチャンスを頂き、新しい方々との出会いにワクワクする日々喜びを感じ、社会貢献活動団体の「責任」を新たにするきっかけになりました。

本プロジェクトは、①逆境的小児期体験を持つお子さん(ACE児)と、②学習ニーズが高いお子さんを除けば、短期間に「就学・就職」に繋がる実績を示すことができたと考えています。

私たちスコップは、医療・福祉専門職による社会貢献活動団体です。今回の経験を活かし、今後は、ACE児を対象としたより個別性と難易度高い新規プロジェクトの計画を考えています。

「みんなで幸せになる」ためにできることをひとつずつ。